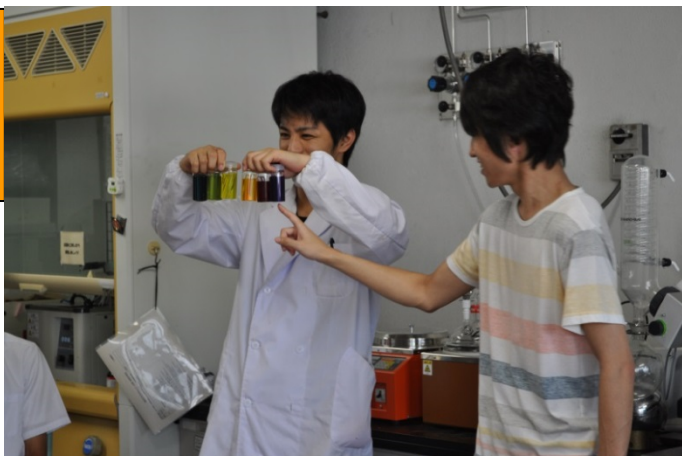


学報

2014 年 9 月 Vol. 685



オープンキャンパス 2014 (8月6日～8日)

2014 年度留学生センター日本語・日本文化研修留学生の日本研究発表会を開催	1
長期インターンシッププログラム (GULIP) のキックオフ会及び懇談会を開催	3
The 3rd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2014 を開催	4
スブラス・マレット大学の統括研究科長 Yunus 教授が保健管理センターを視察	6
岐阜大学オープンキャンパス 2014 実施結果	7
教育連携コンソーシアム 2 大学 (ボゴール農科大学, ランポン大学) を訪問・視察	8
留学生センター日本語・日本文化研修コース及び日本社会文化プログラム修了式を開催	9
マンダレー大学 (ミャンマー) と学術交流協定を調印	10
岐阜大学基金特定事業の寄附金受領式を実施	11
叙位・叙勲	12
表彰受賞者	13
産学連携の実施状況	14
外国人研究者の受け入れ	15
メディア掲載一覧	16
諸会議	21
主要日誌	22
人事異動	《学内限定》 23

2014年度留学生センター日本語・日本文化研修留学生の日本研究発表会を開催

留学生センターは、8月3日（日）、岐阜市立図書館との共催により、岐阜大学サテライトキャンパス多目的講義室において、日本語・日本文化研修留学生（日研生）による日本文化研究発表会を開催した。

日研生は、毎年10月から翌年8月までの約1年間、大使館推薦や大学推薦の国費外国人留学生として、また本学学術交流協定校からの留学生として本学に留学し、主に日本語と日本文化について学び、その集大成として修了論文を執筆する。論文のトピックは留学生が興味のあるものを選び、教員の指導を受けながら論文を完成させる。

今年の日研生は第13期生で、韓国、スウェーデン、タイ、中国、ニュージーランド、ベトナムから本学に留学している10人が発表を行った。

当日は、本学教職員、学生、留学生の外、一般市民の方も参加し、大盛会となった。参加者には、子ども連れの方、国内に進学や就職をした元日研生が何人も会場に駆け付け、日研生発表会の広がりが見られた。

日研生達は、地域に関する文化や日本と自国の文化的な比較等各自が設定したテーマについて、日頃の学習や研究の成果を発揮し、緊張を抑え各自が作成したパワーポイントに基づき流暢な日本語でそれぞれの研究発表を終えた。会場からは熱い声援と拍手が送られた。アンケートでは、研究の視点が日本人と違う点が多く興味深かった、有意義な時間であった等々の意見が寄せられた。以下が今年度の修了論文テーマである。

「長良川鵜飼の文化戦略 ―ユネスコ「世界無形文化遺産」への登録は可能か―」
ルアンシュアムアン・ジェンチャー（タイ）

「災害と多文化共生 ―岐阜市・岐阜大学の取り組みを中心に―」
江洋（コウ ヨウ・中国）

「日本には「徒弟教育」があるか ―日瑞の高校教育における企業実習を中心に―」
ニクラス・ブロムベリ（スウェーデン）

「海女の仕事と現状 ―三重県志摩地区を中心に―」
張思思（チョウ シシ・中国）

「オノマトペにおける日本語と中国語の比較 ―よしもとばなな『キッチン』を例として―」
楊心怡（ヨウ シンイ・中国）

「おまえに本をクレル ―方言における授与動詞「やる」と「くれる」の使用―」
アダム・フェルト（スウェーデン）

「日越女性の社会進出の変遷 ―仕事に対する考え方の変化を中心に―」
グエン・ゴック・タン・タム（ベトナム）

「ベトナム労働力輸出と研修・技能実習制度」
レ・ティ・タン・タオ（ベトナム）

「日本とニュージーランドの庭園の比較 ―池泉庭園と枯山水を中心に―」
レネイ・ジューリアン（ニュージーランド）

「韓日笑芸の盛衰 ―漫談と漫才にみる文化的相違―」
高美景（コ ミギョン・韓国）



発表する日研生



記念撮影

長期インターンシッププログラム（GULIP）のキックオフ会及び懇談会を開催

本学は、8月4日(月)に、GULIP (Gifu University Long-term Internship Program) の開講式となるキックオフ会を開催した。文部科学省に採択された「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の一環で、昨年に続き2年目となる。

GULIP は、学年の異なる学生が6人程度のチームを作り、企業等から与えられた課題の解決方法を考えて提案する問題解決型（PBL型）インターンシップである。今回のキックオフ会、夏休み中の大学でのマナーやプレゼン等の研修、企業等での1週間程度の研修を行った後、後期から本格的に活動が始まる。11月には中間発表を行い、その結果から、更にブラッシュアップして最終発表（年末頃を予定）の実施、年度末の最終報告書の提出と続いていく。

初めて行われた昨年に比べ、今年は金融やマスコミ関係の企業が加わり、15企業・団体が参加した。今年は、3年生の一般企業主催のインターンシップへの関心が高く、参加者が分散する結果となったが、今年から本インターンシップが単位化されたため、1・2年生の参加も多く、最終的な参加申込者は48名となった。

キックオフ会は、江馬理事（教学・附属学校担当）の挨拶に始まり、GULIPを担当する廣瀬幸弘特任准教授の概要説明に続いて、各参加企業・団体からプレゼンが行われた。自社の事業や現状の説明に加え、「女性向けの新サービス考案」（金融機関）、「農業で役立つITシステム」（IT企業）や「地場産業の国際戦略」（自治体）等のインターンシップ課題が示され、学生達の興味を引いた。

その後、学生代表による決意表明が行われ、学生代表の猪飼さんは「みんなをまとめて一つのことを成し遂げる経験をしたい」と動機を語り、最後に佐々木実教育推進・学生支援機構キャリア支援部門長の挨拶をもって閉会した。

閉会後は、会場を移して懇談会を実施。プレゼンで興味を持った企業・団体の担当者を囲み、インターンシップ課題や会社の雰囲気をはじめ、興味のあることに質問する等、有意義なものとなった。



挨拶する江馬理事



決意表明をする学生代表

The 3rd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2014を開催

本学大学院連合農学研究科（博士課程）、同応用生物科学研究科（修士課程）及び静岡大学大学院農学研究科（修士課程）が主催し、8月4日（月）～6日（水）の間、岐阜市にて南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム協定校（南部アジア地域5カ国10大学）及びオブザーバーである広西大学（中国）、ランボン大学（インドネシア）の2大学、合計14大学による「The 3rd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2014」（第3回農学系博士教育国際連携円卓会議及び農学系研究国際シンポジウム2014）を開催した。

初日の4日（月）は、岐阜都ホテルにおいて、協定校10大学の副学長や若手研究者（主に本研究科修了生）30名を含む総勢85名の出席を得て、「農学系博士教育の質の保証と社会貢献の向上を目指す国際連携活動」の一環であるデュアル・Ph.D. デイグリー・プログラムとサンドイッチプログラムの進捗状況と広報を含めた現状報告のほか、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアムの将来に向けた活発な提案、意見交換が行われた。また、オブザーバー出席の2大学を同コンソーシアムに加えることに合意した。



参加者全員で記念撮影



森脇学長の挨拶



協議の様子



千家研究科長の概要説明

2日目の5日（火）は、本学応用生物科学部101講義室において、海外のアカデミアで活躍する本研究科修了生等の若手研究者を講師とした生物・農学系研究シンポジウムを開催し、農学及びバイオテクノロジー分野の最新の研究発表を行った。

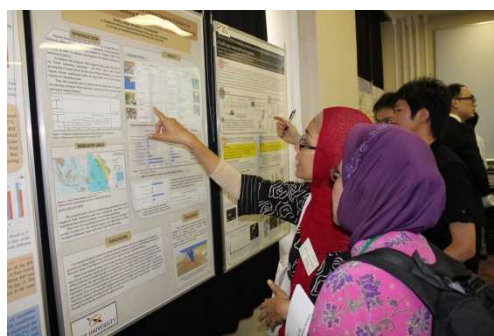
また、同日、6カ国12大学の代表者が森脇学長を表敬訪問した。訪問では、ガジャマダ大学の Siti Subandiyah 教授に対する本学客員教授の称号授与式が行われ、その後、懇談が行われた。懇談では、本学と各大学が相互に関係したイベントをホームページに相互掲載する等の広報を行うこと及び平成28年度に新設される予定の「国際教養コース」を実施するための各大学の具体的な学生の受入れ体制の状況についての活発な意見交換がなされた。

シンポジウム後は、本学流域圏科学研究センター（水環境リーダープログラム）も参加

しての博士課程，修士課程学生による「UGSAS-GU & BWEL JOINT POSTER SESSION」を開催した。当ポスターセッションでは34件のポスター発表が行われ，優秀発表学生4名にポスター賞が授与された。



シンポジウムでの研究発表



ポスターセッションの様子

最終日の6日（水）は，長良川河口堰・木曽三川公園を巡る水環境視察ツアーを実施した。長良川河口堰での英語による説明では熱心に耳を傾け，参加者43名は水環境への取り組みの重要性を再認識し，有意義なツアーとなった。



長良川河口堰で記念撮影



魚道での説明

スブラス・マレット大学(インドネシア)の統括研究科長 Yunus 教授が保健管理センターを視察

インドネシアのスブラス・マレット大学の統括研究科長 Ahmad Yunus 教授が、8月5日(火)、本学の「生涯健康を目指した大学生の健康管理体制」について視察するために保健管理センターを来訪された。Yunus 教授は、学生の教育全般を統括する立場であり、本学の学生全員を対象に実施する質の高い健康診断と、その結果に基づく学生個人への適切な健康指導に興味を持たれ、訪問が実現したものである。

まず、山本眞由美センター長と西尾彰泰准教授が、日本の定期健康診断制度や、大学保健管理に関する取り組み、メンタルヘルス支援などについて紹介した。Yunus 教授は、高度に整備された保健管理体制に、「インドネシアでもぜひ実現したい」と感銘を受けられた。また、保健管理センターの診察室やカウンセリングルームも見学され、情報交換を行った。本学における敷地内禁煙の取り組みや、メンタル支援の取り組みなどについて、具体的な議論をし、今後の連携を深めることとなった。スブラス・マレット大学はインドネシアの大学協会の会長校であり、「インドネシア全体の大学保健管理体制についても考えていきたい」との発言があった。



左：Yunus 教授（奥）とご家族

右：奥より山本センター長，西尾准教授，鈴木理事

岐阜大学オープンキャンパス 2014 (8/6～8/8) 実施結果

学部名		教育学部		地域科学部		医学部医学科		医学部看護学科		工学部		応用生物科学部		計		備考
申込数		754	979	232	260	237	234	499	430	1, 121	1, 073	－		2, 843	2, 976	
参加者数	年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	
	OC	708	902	325	285	198	203	403	357	1,050	1,005	1,152	1,244	4,991	4,876	
	POC※	187	206	92	42	－	－	113	57	－	－	1,155	880	392	305	
	計	895	1,108	417	327	198	203	516	414	1,050	1,005	2,307	2,124	5,383	5,181	
参加率		93.9%		140.1%		83.5%		103.4%		93.7%		－		98.4%	94.4%	OC参加者 /申込数
前年比	参加者総数	80.8%		127.5%		97.5%		124.6%		104.5%		108.6%		103.9%		今年度 /前年度
	OC参加者数	78.5%		114.0%		97.5%		112.9%		104.5%		108.6%		102.4%		

※ 応生については、OC3日目の数字です。

	今年度	前年度
初日	1,309	1,259
2日目	2,594	2,757
3日目	1,480	1,165
計	5,383	5,181

教育連携コンソーシアム2大学（ボゴール農科大学，ランポン大学）を訪問・視察

本学大学院連合農学研究科は，8月12日（火）～16日（土）の3日間，光永徹 南部アジアプロジェクト委員会委員長他3名でインドネシアの協定校ボゴール農科大学及びランポン大学を訪問・視察した。

12日（火）は，ボゴール農科大学の Prof. Latifah への本学客員教授の称号授与式及び加藤晴也海外連携コーディネーターによる講演（タイトル「Cosmetics Industry and Product Development」）を行い，期末休みにもかかわらず150名程の学生が参加し熱心に聴講した。

13日（水）～14日（木）にかけては，IPB International Convention Center (ICC) の訪問，ボゴール農科大学バイオフィーマーカ研究センターにて，Prof. Dahrul 研究科長及び Dr.Irmanida センター長とデュアル PhD ディグリープログラムについて討論，さらに12月に行う「現地研究交流会」の日程調整を行った。

15日（金）は，Great Giant Pineapple Company (GGPC) を訪問し，広大なパイナップル畑の見学，研究室の視察，LOB Plant にて Sukmaratri 氏から会社紹介を受け，本研究科の概要及びインターンシップ受入れについて提案し，討論を行った。

16日（土）は，ランポン大学農学部を訪問，Prof.Abbas 農学部長他20名の教員の出席のもと，デュアル PhD ディグリープログラム締結に向けた意見交換等充実した討論を行い，続いて農学部研究室及び農場を見学した。

今回の2大学，ICC，GGPC の訪問・視察を終え，デュアル PhD ディグリープログラム締結に向け前進するとともに研究施設の実態を把握することができた。

また，今後，海外での研究インターンシップ実施の可能性を確認することができ，今回の訪問・視察の目的を十分に果たすものとなった。



ボゴール農科大学バイオフィーマーカ研究センターにて



ランポン大学農学部にて

「留学生センター日本語・日本文化研修コース及び日本社会文化プログラム」修了式を開催

留学生センターは、8月21日（木）、研究推進・社会連携機構インキュベーション施設において、日本語・日本文化研修コース等の修了式を開催した。

「日本語・日本文化研修コース」は、日本語・日本文化について深く学ぶことを目的とするコースで大使館推薦・大学推薦の国費外国人留学生や学術交流協定校からの交換留学生が学ぶ1年間のプログラムである。

また、「日本社会文化プログラム」は、学術交流協定大学から本学に受入れる交換留学生のうち、留学生センターに在籍し日本語に加え日本の社会や文化に関する知識の習得を目的とする学生を対象としたプログラムである。

修了式には、昨年10月に本学に入学した日本語・日本文化研修コース留学生10人、日本社会文化プログラム留学生1名の計11名が出席した。

最初に、鈴木理事（国際・広報担当）から、修了生に向け祝辞が述べられた。日本語や日本文化を十分学習したことへの賛辞が贈られ、機会があればぜひ本学や日本の大学院に再留学してほしいとの言葉があった。

次に、竹内留学生センター長から、修了生一人一人に修了証書が手渡された。

続いて、日本語・日本文化研修コース修了生を代表して、電子科技大学（中国）の楊心怡（ヨウ シンイ）さん、木浦大学（韓国）の高美景（コ ミギョン）さんから、日本社会文化プログラム修了生を代表してソウル科学技術大学(韓国)の李光淵（イ ガンヨン）さんからスピーチと謝辞があった。

最後に、竹内留学生センター長から、修了のお祝いとはなむけの言葉が贈られ、修了式は終了した。式終了後は出席者全員で記念写真を撮るなど、国籍を超え岐阜大学で一年間共に学び、生活を共にした留学生たちは、和気あいあいとした雰囲気の中、歓喜の気持ちを共有した。

日研生等は、本修了式をもってすべてのプログラムが終了し、その後帰国した。

本コース修了生の中には、本学大学院や他大学大学院に留学のため再来日する学生や国内で就職する学生が多数いる。



竹内センター長から修了証書の授与



鈴木理事、竹内センター長と共に記念撮影

マンドレー大学（ミャンマー）と学術交流協定を調印

本学工学部とマンドレー大学（University of Mandalay）は、8月25日（月）、教員・研究者・学生の人材交流，教育・研究を益々推進するため学術交流協定を締結した。

本学工学部長室で行われた調印式には、マンドレー大学の Maung Thynn（マウン ティン）学長，Than Zaw Oo（タン ザ ウー）博士，鈴木理事（国際・広報担当），六郷恵哲工学部長，リエゾンの仲澤和馬教育学部教授（工学研究科併任）ら関係者が出席し協定書に署名した。

この学術交流協定締結により，両大学の教員・研究者・学生の交流ならびに教育・研究発展に多大な効果が期待される。

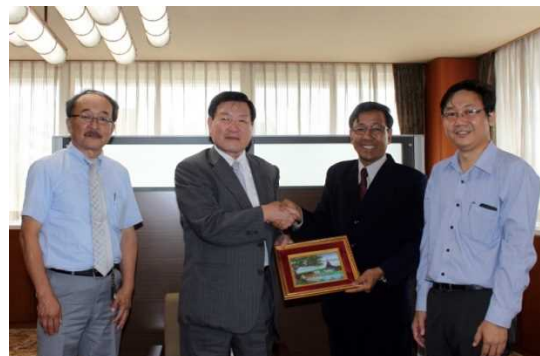
協定に先立ち，マンドレー大学・Maung Thynn 学長，Than Zaw Oo 博士は，森脇学長を表敬訪問し，両大学で交換留学を継続的に行うといった交流推進等についての懇談を行った。懇談終了時には記念品の交換もあり，表敬訪問は終始和やかな雰囲気の中で行われた。

また，協定を記念して記念講演会が行われ，Maung Thynn マンドレー大学長から「マンドレー大学の紹介」，Than Zaw Oo 博士から「ナノ構造化有機太陽光電池－多様性メカニズム－」について講演があった。

記念講演会は30名を超える教員・職員・学生が聴講した。各講演後，マンドレー大学の授業プログラムや試験のこと，3G 有機太陽光電池の創成方法，実験結果など多くの質問があり，盛会のうちに終了した。



調印式の様子



表敬訪問の様子

岐阜大学基金特定事業の寄附金受領式を実施

本学は、8月26日（火）、岐阜大学基金特定事業の寄附受領式を実施した。

株式会社バロー田代正美代表取締役社長から、森脇学長に寄附目録の贈呈が行われ、「平成26年から平成30年までの5年間、意欲ある学生のための支援として役立ててほしい」との挨拶があり、森脇学長からは、グローバル社会に対応できる人材を育てるための貴重な財源として活用させて頂きたい旨の挨拶があった。

また、鈴木理事（国際・広報担当）から、本事業は、海外での研修等により、国際的な視野に立ち積極的に勉学に励む人材育成を目的とした「バロー・Vドラッグ 海外研修奨学金助成事業」として実施していきたいとの説明があった。



田代社長から寄附目録を受領する森脇学長



左より、江馬理事，田代社長，森脇学長，鈴木理事，杉戸理事

叙位・叙勲

元本学職員に対し，次のとおり叙位・叙勲がありました。

故 名誉教授（元工学部教授） 加藤 容三 氏
正四位 （平成26年8月9日）

故 名誉教授（元教養部教授） 大淵 正雄 氏
従四位 瑞宝中綬章（平成26年8月28日）

故 元学生部次長 湯口 唯男 氏
正五位 瑞宝双光章（平成26年8月31日）

表彰受賞者

2013年度プラズマ応用科学会 論文賞

受賞者：安里 勝雄 工学部教授

論文名：分割推進剤を用いた同軸 PPT の Late-Time Ablation 抑制検討

受賞日：平成 26 年 3 月 8 日

2013年度プラズマ応用科学会 論文賞

受賞者：宮坂 武志 工学部准教授

論文名：分割推進剤を用いた同軸 PPT の Late-Time Ablation 抑制検討

受賞日：平成 26 年 3 月 8 日

公益社団法人高分子学会 ヤングサイエンティスト講演賞

受賞者：三輪 洋平 工学部助教

講演題目：ラベル法による高分子の局所ダイナミックスの選択解析

受賞日：平成 26 年 7 月 25 日

公益社団法人有機合成化学協会 2014年度有機合成化学協会東海支部 奨励賞

受賞者：喜多村 徳昭 工学部助教

功績概要：有機合成化学の発展に貢献

受賞日：平成 26 年 8 月 5 日

第56回日本平滑筋学会総会 優秀演題賞

受賞者：椎名 貴彦 応用生物科学部准教授

研究課題：セラトニンによるスunks食道平滑筋の収縮反応

受賞日：平成 26 年 8 月 8 日

公益社団法人岐阜県獣医師会より表彰

受賞者：柳井 徳磨 応用生物科学部教授

功績概要：獣医事の進歩発展に貢献

受賞日：平成 26 年 8 月 30 日

産学連携の実施状況

○共同研究

(平成26年8月契約分)

部局名	研究代表者	企業等名
医学系研究科	湊口 信也	(株) Clio
〃	吉田 和弘	(独) 理化学研究所
医学部附属病院	折居 建治	(株) レクメド
工学部	植松 美彦	(株) 豊田中央研究所
〃	加藤 邦人	川崎重工業(株) 航空宇宙カンパニー
〃	川崎 晴久	スマッツ(株)
〃	河瀬 順洋	日東電工(株)
〃	倉内 文孝	住友電気システムソリューションズ (株)/京都大学/立命館大学
〃	瀬瀬 守	極東製薬工業(株)
〃	沢田 和秀	中日本高速道路(株)/エイト工業(株)
〃	仲井 朝美	(株) 岐阜セラック製造所
〃	王 志剛	村田機械(株)
〃	王 志剛	名北工業(株)
応用生物科学部	中村 浩平	(株) コンティグ・アイ

受託研究

(平成26年8月契約分)

部局名	研究代表者	企業等名
工学部	高橋 周平	国立大学法人北海道大学
〃	河瀬 順洋	富士電機機器制御(株) 吹上事業所
〃	國枝 稔	(株) 大林組
〃	本城 勇介	国土技術政策総合研究所
応用生物科学部	山本 朱美	国立大学法人東北大学

外国人研究者の受け入れ

受入部局	氏名 (国名)	所属・職名	期間	研究題目
応用生物科学部	Gregory J Taylor (カナダ)	アルバータ大学・教授	2014.8.10～ 2015.8.9	植物の重金属耐性の分子機構に関する研究

メディア掲載一覧

○新聞

(平成26年8月分)

掲載日	新聞名	内容
8月2日	毎日	◎スポーツを考える:思考育む社会科教材に ～教育学部(社会科教育学) 田中 伸 准教授～
8月2日	岐阜	岐阜大とマレーシア国民大 互いの研究を紹介 ～工学部～
8月2日	中日	CFRPの炭素繊維 再利用 工程開発で学会賞 ～工学研究科 守富 寛 教授～
8月3日	読売	◎病院の実力:肺がん 薬剤の種類 増加 ロボット手術 他院と連携 ～医学部附属病院第一外科 岩田 尚 臨床教授～
8月4日	岐阜	◎新聞で学ぼう:新聞を有効な教材に ベテラン教師の活用術会得を ～教育学部(社会科教育) 須本 良夫 准教授～
8月4日	岐阜	日本研究の成果堂々 岐阜大留学生が発表会 ～岐阜大学留学生～
8月5日	中日	岐阜大インターン開講 アイデア提案 企業にも利点
8月5日	岐阜	◎研究室から大学はいま:地震の揺れ方は地盤が左右 ～流域圏科学研究センター流域情報研究部門流域 GIS 研究分野 久世 益充 准教授～
8月5日	岐阜	南部アジアの大学に同時在籍の学生 岐阜大, 博士号 W 授与提案 岐阜市で農学系国際会議 ～連合農学研究科 千家 正照 研究科長～
8月6日	朝日	「自立的な学習」岐阜大が支援 学外者も利用可能 図書館リニューアル
8月6日	岐阜	学生の健康管理学ぶ インドネシアの大学関係者 岐阜大施設を見学
8月7日	中日	岐阜大 健康管理法を視察 インドネシアの大学科長ら
8月7日	岐阜	◎素描:初めての夏休み ～森脇 久隆 岐阜大学長～
8月7日	岐阜	「脳卒中センター」発足 岐阜大病院, チームで医療 ～医学部附属病院～
8月8日	岐阜	岐阜大図書館が討議エリア拡充 増築完了
8月9日	岐阜	じっくり語れる大会に 5回目迎える学生落語「てんしき杯」 企画運営 の西澤さん, 歩み振り返る ～岐阜大落語研究会～

掲載日	新聞名	内容
8月9日	岐阜	飛行機の音や振動体感 中日本航空専門学校 岐阜大生, 操縦学ぶ ～工学部学生～
8月9日	岐阜	高校生が外科手術“体験” 岐阜大病院セミナー 切開装置を操作 ～医学部附属病院～
8月12日	中日	一般利用学習室 増築で面積拡大 岐阜大図書館
8月12日	岐阜	胸骨圧迫, こつつかむ 岐阜大病院 親子ら心肺蘇生講習 ～医学部附属病院～
8月12日	岐阜	息ピタリ, 迫力の音色 岐阜大管弦楽団 OB が演奏会 ～岐阜大管弦楽団 OB オーケストラ～
8月12日	岐阜	◎研究室から大学はいま:医学教育, 世界標準で活性化 ～医学教育開発研究センター 西城 卓也 准教授～
8月13日	岐阜	DNA 鑑定に挑戦 中学生, 米の品種見分ける ～生命科学総合研究支援センター～
8月13日	朝日	先端科学 見てみて 中学生らにセミナー ～生命科学総合研究支援センター～
8月14日	中日	第2回“夢”ぎふジャズストリート 出演者を募集 ～金宝町一丁目発展会 広報部長・岐阜大2年 杉江 菜穂さん～
8月14日	読売	DNA 鑑定に挑戦 岐阜大 中学生が米の品種識別 ～生命科学総合研究支援センター～
8月14日	岐阜	◎素描:地域におけるアーカイブの重要性 ～森脇 久隆 岐阜大学長～
8月15日	毎日	◎平和をつむぐ:「武力に頼らない世界を」 父に反発 憲法学の世界へ ～地域科学部 近藤 真 教授～
8月15日	中日	学生落語家 王者は 岐阜で「てんしき杯」 ～岐阜大落語研究会～
8月16日	岐阜	岐阜大ボート部復活 17年ぶり, 同好会に8人「エイト」参戦目指す ～岐阜大ボート部 医学部2年 折原 薫也さん, 応用生物科学部1年 舘 林将さん～
8月16日	岐阜	◎夕開帳:輸入食品の安全性 ～岩田 弘敏 名誉教授～
8月16日	岐阜	学生落語ガチンコ勝負 岐阜大生「初V 狙う」 23,24日に岐阜市で「てんしき杯」 ～岐阜大落語研究会～
8月17日	岐阜	◎サンデーコラム:化石から代謝率計算 「恐竜は中温動物」証明 ～医学系研究科 國貞 隆弘 教授～

掲載日	新聞名	内容
8月17日	中日	念願インカレへ気合 17年ぶり復活 岐阜大ボート部 ～岐阜大ボート部医学部2年 折原 薫也さん, 応用生物科学部1年 舘 林将さん～
8月19日	岐阜	◎研究室から大学はいま:食物アレルギー, 細菌で治療 ～医学系研究科再生分子統御学講座病原体制御学分野 福永 肇 講師～
8月19日	岐阜	医療現場の仕事 児童が体験学習 岐阜大サマースクール ～医学部と医学部付属病院で働く医師, 看護師ら職員の子ども～
8月19日	中日	人体模型を児童観察 岐大 病院勤務 親の仕事体験 ～医学部と医学部付属病院で働く医師, 看護師ら職員の子ども～
8月20日	中日	「甲子園」向け鍛え合う 東海4県 10校が合同学習会 ～岐阜大サテライトキャンパス～
8月20日	中日	高校生が科学探究 遺伝子の仕組み学ぶ 岐阜大助教が指導 組み換え実験 ～生命科学総合研究支援センター～
8月20日	岐阜	学生と市民, 意見交換 誰もが過ごしやすい岐阜市へ 岐阜大 UD 推進策, 続々と提案 ～ぎふフューチャーセンター～
8月20日	岐阜	高校生, ゲノムに挑む 岐阜大で生命科学学習 クラゲの遺伝子注入「光る大腸菌」作製 ～生命科学総合研究支援センター～
8月21日	岐阜	◎素描:岐阜でロケが行われた昭和の日本映画 ～森脇 久隆 岐阜大学長～
8月21日	中日	「ユニバーサルデザイン」推進 岐大生と住民が対話 ～ぎふフューチャーセンター～
8月21日	中日	古戦場観光活用へ 計画策定懇初会合 ～松田 之利 名誉教授～
8月22日	朝日	岐大生, 学生落語の天下取り 全国大会「てんしき杯」あすから岐阜で落研7人, 県勢初優勝狙う ～岐阜大落語研究会～
8月22日	読売	「除草隊」ヤギ 盗難か 美濃加茂で2匹
8月23日	岐阜	◎夕開帳:頻尿と深夜番組 ～岩田 弘敏 名誉教授～
8月23日	中日	コレステロール値改善 ローヤルゼリーがー役 岐阜大, タンパク質特定 ～応用生物科学部 長岡 利 教授～
8月23日	岐阜	コレステロール低下作用 ローヤルゼリー中の物質特定 岐阜大の長岡教授グループ 動脈硬化予防に道 ～応用生物科学部 長岡 利 教授～

掲載日	新聞名	内容
8月26日	岐阜	◎研究室から大学はいま:視覚利用した音声認識追究 ～工学部電気電子・情報工学科電気電子コース 田村 哲嗣 助教～
8月26日	岐阜	岐阜大工学部とミャンマーの大学 教員, 学生交流で協定 ～六郷 恵哲 工学部長～
8月26日	朝日	落語学生日本一 東京理科大生に てんしき杯 ～岐阜大落語研究会～
8月26日	毎日	ヤギとふれあい 子どもたち体験 美濃加茂の里山 ～応用生物科学部 八代田 真人 准教授～
8月26日	中日	ミャンマーの大学と協定 岐阜大工学部, 学術交流で ～六郷 恵哲 工学部長～
8月28日	中日	岐阜大学 どの大学に進んでも, 学ぶ医学は同じ ～医学部医学科1年 森部 真由さん～
8月28日	朝日	◎素描:岐阜の空に見る季節感 ～森脇 久隆 岐阜大学長～
8月30日	岐阜	◎夕開帳:岐阜産業保健総合支援センター ～岩田 弘敏 名誉教授～
8月30日	中日	脳卒中 かかりつけ医に助言 応急処置へ電話センター ～医学部附属病院～

○テレビ・ラジオ

(平成26年8月分)

放送日	番組名	内容
8月1日	NHK 総合テレビ 19:30~19:55 「ナビゲーション」	「先端医療で防げ アルツハイマー病に挑む」 研究内容について/ マウスにメディカルシャペロンを投与している様子, プリオンが正常から異常型に折れ曲がる CG 映像, 桑田教授が開発した化合物 P092 についてなど 大学院連合創薬医療情報研究科 桑田 一夫 教授
8月11日	FM わっち 12:40~12:55 「アフタヌーンアワー」	トラフィレンジャーの活動について
8月15日	中京テレビ 15:50~19:00 「キャッチ！」	戦争特集のなかで日本の平和と戦争に関する留学生の討論に対して, 専門家としてコメント 教育学部 社会科教育(法律・経済) 上野 友也 准教授

諸会議

◇第7回授業編成専門委員会（持ち回り）

8月8日（金）

議 題

1. 平成27年度非常勤講師削減案について

◇第4回岐阜大学国際戦略本部会議（メール会議）

8月12日（火）

議 題

1. 岐阜大学の国際化 Action-plan について
2. パリ第11大学（フランス）との協定について
3. 学術交流協定に基づく交換留学生（短期受入）の選考に関する申合せについて

主要日誌

月 日	行 事 名
8 / 1	応用生物科学研究科修士課程入学試験
3	留学生センター日本語・日本文化研修留学生の日本研究発表会
4	連合創薬医療情報研究科入学試験 岐阜大学長期インターンシッププログラム(GULIP)の開講式 The 3rd UGSAS-GU Roundtable & Symposium 2014開催
6	代議委員会(連獣) オープンキャンパス(～8日まで)
7	研究科委員会(連創)
8	第7回授業編成専門委員会
9	高校生のための街なかオープンカレッジ2014 in 柳ヶ瀬(地)
12	第4回岐阜大学国際戦略本部会議 代議員会(連農)
14	夏期一斉休業(～15日まで 附属病院除く)
21	留学生センター日本語・日本文化研修コース及び日本社会文化プログラム修了式
27	医学系研究科再生医科学専攻(博士前期課程・一般)入学試験(～28日まで) 工学研究科博士前期課程入学試験(～28日まで)
29	工学研究科博士後期課程入学試験